■大槻俊斎　　蘭方医。幕府の種痘所の設置と運営の基礎をつくった。
おおつきしゅんさい
ﾚｻﾞﾉﾌ来航・ 1804＝　　陸奥国桃生郡赤井村(宮城県桃生郡矢本町赤井)に生まれる。

浮世床・・・1813＝ **9歳：**

医師を志して，
水野忠成老中1818＝14歳：
群書類従完結1819＝15歳：医師沸谷氏の養子となったが，間もなく生家に戻る。

伊能図完成・1821＝17歳：江戸に出て，川越藩医官高橋尚斎の学僕となり医学を学んだ。
英船浦賀来航1822**＝18歳：**
さらに水戸藩の支封である長沼藩医官手塚良仙に師事して医学の勉学に励むかたわら，蘭学者湊長安を通じて足立長篤の門にはいり，蘭学・オランダ医学をも学んだ。

富嶽三十六景1831**＝27歳：**

_江戸滞在十余年の間に高野長英・小関三英・渡辺崋山らと交際して大いに知識をひろめ，

大塩平八郎乱1837＝33歳：**_長崎に遊学し蘭医方の研鑽に努める一方，西洋式砲術，兵式をも学んで，**

勧進帳初演・1840**＝36歳：*江戸に帰り，下谷練塀小路で医業を開き，良仙の推挙により長沼侯医官となる。また仙台侯侍医に迎えられて江戸藩邸に出仕。**
天保改革始・1841＝37歳：***再び長崎に遊んで牛痘接種法を学び，牛痘苗を得て江戸伊勢屋の子幾次郎に接種して成功した。これが江戸における種痘の最初で，名声は一時に高まったという。**
蘭書を訳して「ヨヂウム治験」を知り，
阿部正弘首座1845＝41歳：輸入沃度を宇田川榕菴に贈っているが，

江戸の蘭学者多数と交際，それが災して高野長英を庇護した疑いで閉門となったりした。

北斎没・・・1849**＝45歳：**伊東玄朴らの牛痘接種に努める。この年，幕府が漢方医の要請に応じて，外科・眼科を除く蘭方禁止令，蘭書翻訳取締令を発する。

この間，手塚良仙の推挙で常陸国長沼藩主の侍医を勤めている。
ペリー来航・1853＝49歳：
開国開港・・1854＝50歳：**_セリウスの外科書を抄訳して「銃創項言」1冊を著わし，西洋医学の銃創治療法を初めて紹介したが，刊行は困難を極めた。**
松下村塾・・1856＝52歳：***仙台藩医に任命される。**
蕃書調所・・1857＝53歳：**_種痘普及を期して種痘所建設を協議するため，江戸在住蘭医が俊斎宅に集まり，川路聖謨の神田お玉ケ池の別宅地借用を申し込み，**
五ヶ国条約・1858**＝54歳：_建物竣工，種痘を開始した。同年，種痘所が類焼，伊東玄朴と大槻俊斎の宅を仮種痘所とした。再来日したシーボルトの教えを受ける。**
桜田門外変・1860＝56歳：**_牛痘法の成功は漢方を凋落せしめるのに力があり，種痘所は幕府直轄となり，初代頭取に任じられた。**
遣欧使節・・1861＝57歳：***西洋医学所と改称後も頭取をつとめたが，**
生麦事件・・1862＝58歳：**_胃癌にかかり，没した。**

「本朝医人伝」，